

第1次提言の「3つの基調」を提起
 ■第1章で検討委員会の課題意識を整理

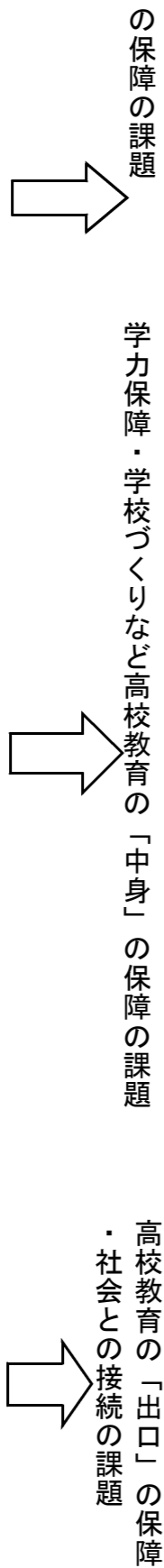
○基調1
 「個人の利益に閉じ込められた教育を社会へとつないでいく」授業料無償化のもとで、教育のもつ社会的な意味を問う。戦後間もない国民が社会の未来を教育の力に託したように、東日本大震災の危機を青年とともに乗り越えていくための教育の役割を確認。

○基調2
 「教育についての合意を小さい単位からつくっていく」子ども理解の場での対話と合意づくりが教育の閉塞感を打ち破るカギ。私たちにできることを手の届くところからはじめよう。

○基調3
 「高校教育の希望はどこにあるか」検討委員会の課題意識を整理。

①学ぶよこびと希望
 ②競争主義の克服
 ③高校格差の問題
 ④適格者主義の克服
 ⑤生徒・父母の声をいかす
 ⑥居場所のある学校
 ⑦成果主義・管理主義の克服
 そのために議論をまきおこすことの重要性を強調し提起。

第1次提言 《高校教育の再生の道はどこにあるか》



第3章 <子どもたちが高校入試で苦しまないように>
 ○高校教育の量的・質的拡大、とくに全日制高校で学ぶ機会の保障し、高校教育から子どもたちを排除しない制度的枠組みの構築を
 ○「地域の高校」の可能性の探求

第2章 <「基準に合わない子」を切り捨てない学校と居場所づくりを>
 ○「生徒にゆっくりかかわる」「気になる生徒」について語り合うなど、学校にゆとりを取り戻そう。
 ○「生徒と討論する」「学校の外にも居場所を」などを提起。

第5章 <みんなで学ぶことがよこびとなる授業と学校をつくらう>
 ○高校生の学びの現状から学力保障を目標におくことの意義を確認。
 ○学びの再生のために「授業改善」「評価論」などを展開。
 ○問題解決能力を高める自主活動の意義をあらためて確認しよう。

第6章 <社会を担う力を育てる労働の学習を>
 ○学校では職業・労働をどう教えているか。
 ○文科省の「キャリア教育・職業教育」は現状を好転させることができるか。
 ○社会を担う力を育てる職業・労働教育の課題は何か。

第4章 <点数競争しないと高校って学べないんですか>
 ○過熱する受験競争、特にセンター試験が高校での学びに大きな影響。
 ○どうやって受験過熱を緩和するか
 ○過熱をクーリングアウトする機能に注目。大学入試が学びの創造につながるよう大学入試の改革を。

第9章 <希望者全入の具体的な前進について>
 ○希望者全入を前提とした「入学試験」のあり方について提起
 ○義務教育でのやり直し、希望者全入を実現するための高校での学力保障
 ○希望者全入が地域の高校の可能性をきりひろく

第10章 <新しい時代の教育課程論>
 ○高校教育の共通目標として「基礎・基本」「量から質へ」「学習の動機づけ」を提起。
 ○21世紀に求められる教育課程論—教科・科目の再構成、教科内容の小中高の接続、教科書の改善など。
 ○学びの方法、自前の教育課程づくり

第11章 <新しい職業・労働教育論>
 ○東日本大震災の産業への影響検証。
 ○全国のすぐれた実践から学ぶ。
 ○学校でとりくめる職業・労働教育～できることからはじめましょう。
 ○世界的視点で職業・労働教育を。

第7章 <生徒・父母・教職員の参加でつくる元気な学校づくりを>
 ○民主的な学校運営は元気が出る学校づくりにとってもっとも大切な課題。
 ○生徒の成長をはぐくむ学校づくりで急がれる課題を整理。参加と共同がカギ。

第15章 <高校教育と大学教育をどうつないでいくか>
 ○今や大学も「普通教育」を担うべき。
 ○高額な学費が大学進学率の上昇をおさえている現状。教育費の私費負担が大学改革・大学入試改革の足かせに。
 ○大学学費の軽減が可能性をうみだす。

*教育財政・教育条件整備の課題

第16章 <教育は将来の幸福な社会への投資です>
 ○教育への投資は個人の利益追求が目的ではない。無償化が効果を検証。
 ○貧困の連鎖を教育で断ち切る。
 ○授業料無償化は教育無償化の一步。
 ○無償化に必要な予算はいくらか。

第14章 <小さな学校づくりと教職員の定数改善>
 ○少人数学級・小規模校の意義をおさえる。
 ○高校の学級定員を「標準」から「上限」規定に
 ○高校でも小規模校の実現を。そのために教職員の定数改善を。
 ○教職員の異常な多忙化解消を。

第13章 <高校つぶしから「地域の高校」を育てる流れをつくらう>
 ○高校統廃合を阻止した長野の県民運動の教訓から学ぶ点を体系的にまとめる。
 ○住民の参加と共同ですすめる地域の高校づくりの視点を提起。「学校を地域にひろく」とは、「生徒の学校参加とともに地域参加を」「学校づくりと地域づくりの結合」など。

第17章 <社会全体で若者の雇用を支えます>
 ○キャリア教育を主権者教育に組みかえる。机上の学習ではなく生きた働くルールを学ぶ。
 ○働きながら学ぶ高校生を守る。
 ○進学・就職を過酷なイス取りゲーム競争から、若者に必要な居場所を地域から創造する。
 ○高校生の就職保障と働くルールの確立を。大企業のため込みを崩せば雇用確保は十分可能。

若者の成長を社会全体で支えるための5つの提言
 ■第8章で第2次提言の全体像を提起

①高校教育・後期中等教育の保障…「希望者全入」の前進、高校入試のあり方、高校教育の改革など。

②中等～高等教育の制度的見直し…「すべての国民に一二年間の教育を保障する制度」などの構築。

③中途退学問題の解決…適格者主義からの脱却、ドロップアウトしても放置されない社会。

④若者が自立できる職業の保障…若者の雇用と働くルールの保障を。

⑤若者支援の確立で若者が居場所のある社会を…若者支援の体制と政策の確立、若者の社会参加を。

第2次提言 《若者の成長を社会全体で支えるために》